

2024 年 3 月 25、26 日

2023 年度卒業式 式辞

早稲田大学 総長

田中 愛治

卒業生の皆さん、ご家族・ご親族の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業される皆さんはもちろん、これまで卒業生を支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べたいと思います。

本来であれば、卒業生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたいのですが、様々な感染症が次々と発生しているため、皆さんの健康を第1に考えて、卒業生の皆さんだけに出席していただいています。その意味では、保護者ならびにご親族の方たちには申し訳ないと感じております。とはいえ、本日、皆さんがコロナ・パンデミックを乗り越えて、無事に勉学を修めて卒業することを、私たち教職員はたいへん誇らしく、嬉しく思っています。

今年の卒業生は、特別な思いを持って、卒業されることと思います。学部を卒業される皆さんの多くは、2020年4月に新型コロナウイルス感染症拡大の最中に入学されました。そのため、入学式を執り行うことが出来ませんでした。

また2020年度は、ほぼ1年間を通してオンラインで授業を受けていただくことになりました。2021年度からは徐々に対面の授業を復活させてきましたが、学生生活においては2022年度末まで、3年間もの間、大きな制約がありました。例えば、学生同士のコンパも、昨年、2023年の4月まで解禁できませんでした。振り返ってみれば、皆さんはずっと十分な学生生活を享受することが出来なかったと思います。それは、学部生に限らず、大学院生も、芸術学校の生徒の皆さんも同様に、相当に制約された学生生活を送ったことと思います。

しかし、早稲田の学生の皆さんは全員がよく自制をしてくださり、この4年間、学内で大規模クラスターを発生させることはありませんでした。皆さんのご協力に心から感謝いたします。

このように、皆さんも、私たち早稲田大学全体も、コロナ・パンデミックに振り回されてきたわけです。皆さんのなかには、最も充実すべき学生生活の多くが失われた、という感覚をお持ちの方もおられるでしょう。しかし、コロナ・パンデミックの経験をネガティブに捉えず、この辛い経験が役に立つときがある、と信じて進んでいただきたいと思います。皆さんは、若い学生時代に辛いことを経験したのですから、他の世代より一層強く逞しくなっていると思います。

今、私は「逞しくなる」という言葉を使いました。実は、私が5年半前、2018年11月に総長に就任してから提唱してきた理念が、「たくましい知性」を鍛えること、そして「しなやかな感性」を育むことなのです。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミックへの対策には、これが正解と証明されているものはありませんでした。同様に、地球の温暖化による気候変動への対策も、地球上の至る所に存在する貧困と格差の解決法も、また世界各地で起きている戦争・紛争・武力侵攻によって多くの人々が命を落とし、人権侵害が続いている状態など、どの問題も正解を見つけにくい大きな問題です。

皆さんが社会に出て向き合う問題の多くは、このように正解が教科書や専門書に記されていない場合が多いと思います。武力による人々への人権侵害やコロナ・パンデミックなど、いま私が例に挙げた、人類全体が直面している問題ほどには大きくはないとしても、皆さんが今後人生で向き合う問題には正解のないものばかりでしょう。そのような未知の問題に果敢に挑戦して、自分の頭で自分なりの解決策を考え出す力、これを私は「たくましい知性」と呼んでいます。

皆さんは早稲田で、「たくましい知性」を育み、「自分の頭で考える」ことを身につけたと思います。「自分の頭で考える」ためには、やはり学問が重要なのです。学問とは、文字が発明されて以来、5千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的にまとめられたものです。もちろん、過去に人類が経験したことのない未知の問題の解決方法は、学問には記されていません。しかし、学問をひもとけば、過去に人類がどのように、未知の問題に挑戦したのかを、学ぶことができます。したがって、皆さんが未知の問題に挑戦する際には、早稲田で修めた学問が座標軸となり、今後の人生の道標（みちしるべ）となっていくはずです。

もう一つ大切なことは、「しなやかな感性」を育むことです。すなわち、異なる国籍・エスニシティ・言語・宗教・文化・信条・性別・性的指向を持つ人々に対して、敬意をもって接することです。そうした利他の精神を身につけることで、「しなやかな感性」は涵養されます。とくにコロナ・パンデミックでは、国や民族の違い、あるいは経済的な格差により、弱い立場の人々がいっそう苦しむことになったと思います。そのことを肌で感じる経験をした皆さんは、より一層「しなやかな感性」を育むことができたと思います。

現在、地球上のいたる所で起きている紛争や戦争、さらには人権侵害、政治的な対立を見て、皆さんはどう感じているのでしょうか。人間同士が何故これほどまでに対立し、いがみ合わなくてはいけないのでしょうか。自分とは異なる人々の立場に立って考えることができれば、人間世界はもっと平和になるだろうと思います。その意味では、皆さんが「しなやかな感性」を育むことは大切です。

さらに、私が2022年に加えた3番目の理念は「響きあう理性」です。この理念は、自

分と異なる考えを持つ人の意見にも耳を傾け、対話を通して互いに高めあうことを奨励しています。特に、早稲田という研究大学で学んだ皆さんは、ご自身の知性に自信を持つと同時に、他の人の理性にも敬意を表してもらいたいと願っています。

私は、皆さんには早稲田大学で学んだ「たくましい知性」「しなやかな感性」「響き合う理性」の大切さを心に刻み、今後の人生に生かしていただきたいと願っています。皆さんが、その考え方を貫いて、社会に出て仕事をしていけば、世界は、人類社会は、もっと平和で、もっと公平で、もっと良くなるだろうと思います。この考え方は、早稲田大学の建学の精神につながっています。

早稲田大学の創立者、大隈重信は当時の学生諸君に向かって、建学の精神として三つの理念を提唱しています。それが「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」で、この三つの理念を「早稲田大学教旨」と述べています。その最後の「模範国民の造就」を、大隈は最も大切だと考えていて、その意義を「一身一家一国のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」と解説しています。すなわち、早稲田の建学の精神は「世界人類に貢献する人材を育成すること」であります。そのためには教育が必要ですが、その教育は学問を基礎としていなくてはならないと考え、「学問の活用」を重視しました。さらに、世界人類に貢献する学生を教育するには、その教育の基礎となる学問は、権力や金力や名誉欲におもねることなく真理を追究することが必要なので、「学問の独立」が重要と述べたのです。

現在、早稲田大学が目指しているのは、「世界人類に貢献する人材の育成」であり、すなわちグローバルリーダーを生み出す大学になるということです。しかし、早稲田が考えるグローバルリーダーとは、必ずしも国際連合などの国際機関や国際的な企業で働くことばかりではありません。我々が早稲田で考えるグローバルリーダーのイメージとは、世界の何処にいても、どのような小さな村や町にしようと、どんなに小さいNPOや企業や自治体で仕事をしていようと、その卒業生が常に世界人類のためと思って仕事をしていれば、その人はグローバルリーダーなのだということです。これが、我々が考えるグローバルリーダーのイメージです。皆さんも、是非ともその意味で、グローバルリーダーとして活躍してください。

最後に二つお伝えしたいことがあります。皆さんの多くは学部1年生になる時に入学式がなく、コロナ・パンデミックで大変苦勞された卒業生ですので、なるべく早く早稲田での思い出を良いものに変えていただきたいと思います。そこで、卒業5年後のホームカミングデーにご招待し、それから5年ごとにホームカミングデーにご招待することにしました。皆さんは、2023年度の卒業生ですので、5年目の2028年10月のホームカミングデーに、その後は5年ごとに毎回ご招待します。

そのためには、連絡が常につくように、学生時代に使ってきたMy Wasedaのメールアドレスは卒業後もずっと使えますので、そこに来るメールを、ご自身が将来転職しても、世界中どこに住んでも、ずっと使おうと考えているプライベート・アドレスに、自動転送す

る設定をしてください。そうして、早稲田大学と一生つながってってください。

もう一つお伝えしたいことは、皆さんは卒業して社会に出たら、ご自身がやりたいと思う、遣り甲斐があると感じることに力を入れてください。目先の出世とか、損得を考えて、ご自身が興味ないことをやっても、皆さんの力は80パーセントしか出ません。ご自身が面白い、遣り甲斐があると感じることなら、皆さんの力は120パーセントになります。どの時代でも、どの社会でも、120パーセントの力で仕事をする人は、80パーセントで仕事をしている人よりも成功する確率が高いのです。このことは、私のゼミ生が卒業するときに言って来ましたが、今は総長としてすべての早稲田の卒業生にお贈りしています。

皆さんは、早稲田で学んだことに自信を持ち、コロナ・パンデミックの中で苦しい学生生活をやりきったことを誇りとして、今後の人生を切り開いてください。

卒業後も、時々は母校に帰ってきてください。その時には、今よりも輝いている早稲田で、今よりも輝いている皆さんとお会いしましょう。

To those graduating students who are still learning Japanese, I want to congratulate you briefly in English.

You should be proud of what you have learned at Waseda, as well as trust in your intelligence and ability. With your education, intelligence and ability, may you contribute to human kind as you make your way through the world.

Congratulations on your graduation!

卒業生諸君、本日は、ご卒業、本当におめでとう！